

群 教 セ	G01 - 04
	平 14.207 集

地域を題材にした文学の調べ学習 を取り入れた指導の工夫

―― 自ら文学を読み味わう生徒の育成を期して ――

特別研修員 内藤 晴行 （群馬県立吾妻高等学校）

《研究の概要》

本研究は、文学の学習において、自ら文学を読み味わう生徒の育成を目指し、地域を題材にした文学の調べ学習を取り入れた指導を工夫したものである。具体的には、地域を題材にした文学から、自分が興味を抱いたものを選び出し、調べ学習を行う。発表・自己評価・相互評価の活動を通して、文学を学び合う面白さ、自ら文学を学ぶ喜びを感じ、文学を深く見つめるようになることによって、自分の心と向き合う資質が育つよう工夫した。

【キーワード：国語 - 高 読むこと 地域文学 調べ学習 自己評価】

主題設定の理由

文学に出会うということは、先人が文学に込めた思いを自分の心で感じ取り、また、その思いと、今の自分と共通点はないだろうかということを知ることである。しかし、生徒は、文学というと、ことに古典文学や近代文学に対して、はるか遠い昔のもの、自分とは無縁なものとしてとらえてしまっている。そこで、本研究を通して、特に古典を中心とした言語文化が、自分たちの生活の一部であることに気付き、文学を、読んでみよう、調べてみよう、そこに込められた思いを感じ取ろうという気持ちを育成したいと考えた。

本校の生徒は、部活動や学校行事などを中心に、前向きに取り組むが、おとなしく素直で授業に対しては受け身がちな傾向が見られる。しかし、定期考査の前や就職・進学指導などでは、個人的に職員室に質問や相談に来る生徒が多く見受けられる。国語の授業においても、発言は少ないものの前向きに取り組む姿勢が見受けられる。内容として、文章の読解、古文の口語訳、漢文の訓点、書き下し文などの基礎・基本の力を培うことを中心としている。また、朝学習では漢字の読み書きの練習を行っている。そして、国語の進学補習や漢字検定など前向きに取り組む姿勢も見受けられる。それにもかかわらず、国語の学習活動において受け身がちな印象を受けてしまうのは、私の授業実践の在り方に課題があるのではないかとと思われる。それは、指導形態が教科書を中心とした講義形式になっているため、生徒の言語文化への意識が離れていき、特に古典に対しては、自ら課題を見つけて学習しようという気持ちを喚起することができなかったのである。これらの課題を、日ごろ生徒が、何となく過ごしてきた地域を題材にした文学の調べ学習を取り入れた指導の工夫を通して解決したいと考える。

生徒は、調べ学習を「総合的な学習の時間」の先行的な取組として、一年次に班別でテーマを決めて調査・研究する「ふるさと学習」の中で経験している。そして、さらに、中学校時代にも調べ学習に何らかの形で取り組んできている。本研究では、地域を題材にした文学（以下、地域文学）を通した調べ学習を行う。それは、地域文学をきっかけにして、その文学の存在に気付き、自分と文学とのつながりやそこに込められた思いを感じるによって、文学を読み味わうようになることで、自分の心と向き合う資質が育つよう、本主題を設定した。

研究のねらい

文学の学習において、地域文学から、自分が興味を抱いたものを調べる活動から、自分と文学とのつながりを感じることによって、自分の心と向き合う資質が育つようになり、自ら文学を読み味わう生徒を育成できることを、実践を通して明らかにする。

研究の見通し

- 1 出会いの過程において、文学とのかかわりを身のまわりから感じるよう、身近なものを再発見するための調べ活動を取り入れれば、文学を学び合う面白さを感じるようになり、自分が住んでいる地域文学の存在に気付くようになるであろう。
- 2 広げる過程において、新たな発見をした文学に気軽に触れられるよう、地域と地域文学とのつながりに気付くための調べ活動を取り入れれば、自ら文学を学ぶ喜びを感じるようになり、地域文学と自分とのつながりに気付くようになるであろう。
- 3 まとめる過程において、自分と文学との関係が深くなるよう、調べた地域文学に寄せる自分の思いをまとめる活動を取り入れれば、文学を深く見つめるようになり、文学を通して自分の心と向き合う資質が育つようになるであろう。

研究の内容と方法

1 研究の内容

(1) 自ら文学を読み味わうとは

地域文学について調べ、自分と文学とのつながりを感じることによって心を豊かにし、自分の心と向き合うことになることから、文学を読み深めていくことである。

地域の人たちとの交流や地域文学に触れることによって、文学に対して共感したり反発したりすることが、自分の心の変化につながると考える。また、言語文化に対して関心をもつきっかけとなるであろう。さらに、現在生活している自分が、過去の世界とのつながりをもっていることを知り、文学が自分たちの生活の一部になっていることを日常生活から感じるようになるであろう。そして、生徒は、文学が自分の身近に存在しているということを感じ、文学が自分と無縁なものではないと気付くであろう。文学に込められた思いを感じ、文学を自ら学ぶ喜びを感じるようになるであろう。

(2) 地域を題材にした文学の調べ学習とは

地域文学を読み、興味を抱いたものについて様々な角度から調べ、調べる面白さを感じるだけでなく、地域文学とのつながりを知ることにより、自分と文学との関係を深めていく活動である。地域文学は、『高校生のための群馬の文学』を使う。その中でも、生徒が多く住み慣れ親しんでいる地域(例えば、吾妻・渋川・利根などの郷土)に主眼を置く。この学習を通して、調べたことや聞いてきた多くのことから自分の思いをまとめる力が高まるであろう。また、それぞれの生徒が自分の思いを発表し、評価し合うことから、聞き手の反応としての課題意識をもって聞くようになる力が高まるであろう。そして、題材が見聞き知っている地域であることから、級友の学習の様子や発表、自分の思いとそこに込められた思いとの対比や、生徒が互いに評価し合うことを通して、郷土を再発見することになるであろう。

2 研究の方法

研究の見通しに基づき、以下の計画で授業実践を行い、検証する。

(1) 授業実践計画と検証計画

対象	群馬県立吾妻高等学校 普通科 2年C組 23名(女子)選択授業	期間	平成14年10月17日～ (14時間)
検証項目	検証の観点	検証の方法	
見通し1	○出会いの過程において、文学とのかかわりを身のまわりから感じるよう、身近なものを再発見するための調べ学習を取り入れれば、文学を学び合う面白さを感じようになり、自分が住んでいる地域を題材にした文学の存在に気付くことに有効であったか。	○文例に従い、自分の学習について自己評価する。よかったことだけでなく、失敗したことや反省したことなど自分の考えをまとめようとしていることに主眼を置く。 ・「自分が住んでいる地域を題材にした文学の存在に気付いた」ことを書こうとしていることを分析する。 ・自分の言葉で、自分の思いを文章として自分の考えをまとめようとしていることを分析する。 ・教師の評価観(評価規準)と生徒の自己評価の記入状況から、生徒個々の評価を押さえ検証する。	
見通し2	○広げる過程において、地域を題材にした『群馬の文学』から、文学に気軽に触れられるよう、地域と地域文学とのつながりに付くための調べ学習を取り入れれば、自ら文学を学ぶ喜びを感じようになり、地域文学と自分とのつながりに気付くことに有効であったか。	○ノートにまとめるまでに、地域文学に触れたり、読書や取材などから幅広く情報を収集し、適切に整理し、自分の考えをまとめていることに主眼を置く。 ・本学習を通して、「地域文学と自分とのつながりに気付く」ことを、学習活動の様子やノートにまとめている様子などから分析する。 ・調べてきたことを取捨選択し自分の考えをまとめていることを、活動の様子から分析する。	
見通し3	○まとめる過程において「出会い・広げる過程」で自分と文学との関係が深くなるよう、調べた地域の文学に寄せる自分の思いをまとめる調べ学習を取り入れれば、文学を深く見つめるようになり、文学を通して自分の心と向き合う資質が育つことに有効であったか。	○文例にそって、自分の言葉で相手に伝わるよう、文章で表現することを理解でき、相互評価を書くことができていることに主眼を置く。 ・聞き手側の反応として、「課題意識」をもって聞くことを理解できていたかを評価カードの記入状況から分析する。 ・発表者の思いとその文学に込められた思いを知り、自分もその文学に興味を抱いた文学を読んでみようなどの内容を書くことができていたかを記入状況から分析する。 ○「出会いの過程」での自己評価をふまえ、この過程に取り組むことを理解できていたか、学習活動の様子や自己評価記入状況から分析する。 ・自分の考えを、効果的に表現することを理解でき、学習することができたかを分析する。 ・地域文学を読み深めるようになることで、自分の心と向き合うようになったことを学習の取組や記入状況から分析する。 ・教師の評価観(評価規準)と生徒の自己、相互評価を参考にし、生徒個々の評価を押さえ検証する。	

(2) 抽出生徒について

- A子：言葉を選ぶ力や、話す力はあるが、自ら課題を見つけて学習し、自分の言葉で文章に書き表現しようとするに課題があると考え。文学と自分とのつながりを深める活動を通して、自分の思いを自分の言葉で文章に書き表現する力が育つよう支援したい。
- B子：文章や言葉を学ぼうとする意欲はあるが、文章でも古文や漢文などに対して、苦手意識をもっていることに課題があると考え。身近な古典文学に触れることによって、学ぶ意欲を引き出し、古文や漢文への苦手意識を克服できるよう支援したい。

研究の展開

1 題材の考察

『高校生のための群馬の文学』は、生徒自身が、文学を学び合う面白さや自ら文学を学ぶ喜びを感じ、自ら文学を読んで楽しむ力を育てる題材であると考えている。生徒自身が興味をもった題材とそうでない題材とでは、授業に対する気持ちの入れ方に格段の差が現れる。過去に聞いたことのある話や、知っている名前、知っている場所、少しでも学習したことのあるものには、興味を抱いたり、身近に感じるようである。この題材を特設することで、生徒は、知っている名前や場所、住んでいる地域の話、ふだん何となく通っているところや行ったことのある場所に、興味を抱くと思われる。本題材を通して、地域文学の存在や自分とのつながりに気付き、自分たちの住む地域を再発見してほしいと考えるものである。

2 指導計画

(1) 単元の目標及び評価規準

目 標	自分から調べ学習に取り組み、事象を自分の心で感じ、文学と自分とのつながりに気付き、自分の心と向き合うことができる。
評価規準	・自分が興味を抱いた題材について、自分から調べ学習に取り組み、発表の目的や相手、条件などをふまえて、自分の考えをまとめようとしている。(関心・意欲・態度) ・自分が興味を抱いた題材に関係する情報を、読書や取材、観察などに幅広く収集し、適切に整理し、自分の考えをまとめている。(書く能力) ・興味を抱いた題材について調べた自分の考えを、段落を設けて展開し、述べたいことを効果的に表現することを理解できる。(知識・理解)

(2) 指導計画(全14時間予定)

過程	時間	ね ら い	学習活動	教師の支援	評価項目（方法）
出 会 い	1 時間から 5 時間については、資料編参照				
	6	見通し 1 ○ 文学を学ぶ面白さや面白さを感じながら、自分の考えをまとめる。	○ 発表を含め、調べ学習の過程について、文例や自分の考えをまとめる。 ○ 自分の調べ学習に対して、自分の言葉で文章として、評価に自分の考えをまとめるよう支援する。（B 子） ○ 自分の興味に基づいて調べ学習活動を振り返り、反省を含めた自分の思いを自分の言葉で書き表現し、まとめるよう支援する。（A 子） ○ 文学を学び合う面白さを感じ、自分が住んでいる地域文学の存在に気付こうとする。（A 子・B 子）	《自己評価》 ○ 文例に従い、自分の学習について自己評価する。よかったことだけでなく、失敗したことや反省したことなど自分の考えをまとめようとしている（自己評価カードの表記）。 ・ 「自分が住んでいる地域文学の存在に気付く」ことを書こうとしている（自己評価カードの表記）。 ・ 自分の言葉で、自分の思いを文章として自分の考えをまとめ評価しようとしている（授業観察）。 《関心・意欲・態度》	
広 げ る	7 時間から 9 時間については、資料編参照				
	10	見通し 2 ○ 自ら文学を学ぶ喜びを感じ、地域文学と自分とのつながりに気付く。	○ 調べてきたものを、自分の言葉で自分の思いをまとめ、表現するよう支援する。（A 子） ○ まとめるときに、取捨選択するが、まとめるに書ききれなかったものも、無駄にはならないと考えるよう支援する。（A 子） ○ 発表に向けて、自分の思いが伝えられるよう、工夫して資料を作成できるよう支援する。（B 子） ○ 自ら文学を学ぶ喜びを感じ、地域文学と自分とのつながりに気付く。（A 子・B 子）	○ ノートにまとめるまでに、地域文学に触れたり、読書や取材から情報を収集し、適切に整理し、自分の考えをまとめている（個人ノートの表記）。 ・ この学習を通して、「地域文学と自分とのつながりに気付く」ことを、学習活動の様子や、ノートにまとめている。 ・ 調べてきたことを、取捨選択し、まとめている。 《書く能力》	
ま と め る	11 時間から 13 時間については、資料編参照				
	14	見通し 3 ○ 自ら文学を読む楽しさや面白さを感じ、自分の心と向き合う。	○ 「調べ学習」と「自分の発表」について、文例や自分の考えをまとめる。 ○ 自分の思いと関連したほかの生徒の思いを理解して、「課題意識」をもって、相互評価に記入できるよう支援する。（B 子） ○ 発表者の思いとその文学に込められた思いを知り、何かしら自分も発表の中からその文学に興味を抱き、読んでみようと思うことができるよう支援する。（A 子） ○ 「出会いの過程」の反省を理解し、それを生かして学習したことを記入できるよう支援する。（B 子） ○ 「出会いの過程」での自己評価をふまえ、理解した上で、地域文学を読み深めるようになったことが、実は、自分の心と向き合うことにつながることを理解できるよう支援する。（A 子） ○ 自ら文学を読み楽しみ、自分の心と向き合う。（A 子・B 子）	《相互評価》 ○ 文例にそって、自分の言葉で相手に伝えるように、文章で表現することができ、相互評価を書くことができる（評価カードの表記）。 ・ 聞き手側の反応として、「課題意識」をもって聞くことを理解できている。 ・ 発表者の思いとその文学に込められた思いを知り、自分もその文学に興味を抱き読んでみようなどの内容を書くことができている。 《自己評価》 ○ 「出会いの過程」での自己評価をふまえ、この過程に取り組むことが理解でき、自己評価を書くことができる（自己評価カードの表記）。 ・ 自分の考えを、効果的に表現することを理解し、学習を進めることができた。 ・ 地域文学を読み深めることができることで、自分の心と向き合うようになった。《知識・理解》	

研究の結果と考察

- 1 文学とのかかわりを身のまわりから感じるよう、身近なものを再発見するための調べ学習を取り入れたことは、文学を学び合う面白さを感じ、自分が住んでいる地域文学の存在に気付くことに有効であったか

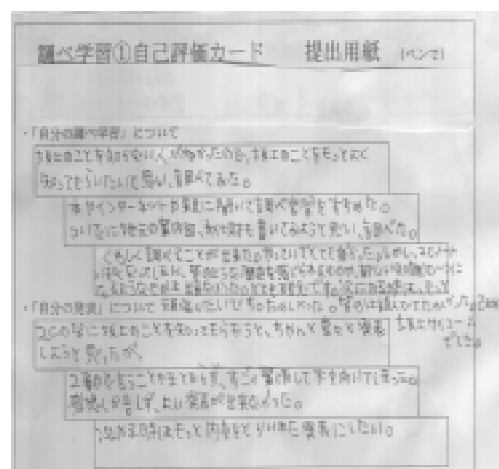
生徒は、身のまわりにある題材から興味・関心に基づいて、地元のことや、人物、史跡等を取り上げ、6時間で調べ学習を行った。4、5時間目はまとめたものを発表した。発表したことについて、自己評価カードに記入した。これは、例文を示し、自分の調べ学習に対する反省も含めて、自分の言葉で文章として表現した。この学習を提示したときの生徒の反応は、戸惑い気味であった。しかし、調べ学習をしていく過程で、自分の力でやらなければならないという姿勢に変わっていった。また、図書館の司書専門員が、生徒のために「群馬の文学コーナー」を設置してくれたので、生徒も資料を効率よく活用していた。

A子は最初、何を調べたらよいか悩んでいた。そこで、「自分が住んでいる地域について調べ学習をしてみては。」と助言したところ、地元の村の名所や句碑などについて調べ始めた。その後、まとめあげる際にも悩んでいたので、「2Cノート(クラスノート)のように、自分の思いを表現してみては。」と助言したところ、分かりやすく丁寧に自分の思いをまとめた。自己評価では、「みんなのような、新しい知識の一つになるようなものができず、残念。次にやるときは、もっと頑張りたい。」とあった。しかし、本人の反省とは反対に、分かりやすく丁寧にまとめたノートを使って、発表を通して、級友にしっかりと自分の思いを伝えられたのではないかと考える。それは、言葉を選ぶ力や話す力をもっているA子が、自ら課題を見つけて学習し、地域文学の存在に気付くことで、自分の思いを自分の言葉で文章に書き表し、それを表現しようとする気持ちが高められたと考えられるからである。

B子は、いつもと違う学習形態に戸惑っている様子であった。そこで、「自分のまわりの人に話を聞くという調べ学習もある。」と助言したところ、自分が住んでいる土地の成り立ちについて調べ始めた。その後のB子の様子は、学習を重ねるごとに変わっていった。最後の自己評価を見ると、「小さいころから聞いていた話を基にしたり、祖父や親から話を聞いたりした。」という言語活動を主体として取り組んでいた。また「写真や絵を入れればよかった。」「原稿を用意すればよかった。」と反省した。自分の失敗や反省をしっかりと自分の言葉で文章として表現した。この過程の最後に、「なぜ、最初は戸惑っていたのに、頑張ることができたのか?」と質問したところ、「やっていくうちに、自分が今住んでいる地域や祖先のことについて、いろいろな発見があり、面白かった。」と言っていた。資料1 A子の自己評価カード

また、「今後は、機会があったらこの土地に関する本を読んでみたい。」と言った。これらの答えを聞いたとき、B子がこの学習を通して、学習に対する意識が変わったということを実感した。調べ学習を自分の力でやることによって、自信をもったようである。自分が興味を感じたことを調べたり発表する学習を通して、自分から学ぶという資質が育ったことで、古文に対する苦手意識を取り除くことができたと考えられる。

以上のことから、身近なものを再発見するための調べ学習を取り入れたことが、文学を学び合う面白さを感じ、自分が住んでいる地域文学の存在に気付くことに有効であることが分かった。



- 2 『群馬の文学』から、新たな発見をした文学に気軽に触れられるよう、自分の思いをまとめるための調べ学習を取り入れたことは、自ら文学を学ぶ喜びを感じ、地域文学と自分とのつながりに気付くことに有効であったか

生徒は、『群馬の文学』から興味を抱いた詩や文章、人物などを取り上げ、4時間で調べ学習を行った。最初、『群馬の文学』に目を通したが、「初めてこの本の内容を見た。」とか「まさか使うと思わなかった。」という声があった。しかし、前と関連したものが出てくると気付いて見ていた。また、巻末の文学地図や文学年表を見て、知っている人物・場所・地名などをあげていた。「古典文学」と「現代文学」に分かれている中から、どちらかを選び、自分の興味を抱いたものという共通基盤の下、調べ学習に取り組んだ。「出会いの過程」に引き続き、図書館の司書専門員が『群馬の文学』の内容に関連した資料を集約してくれ、生徒も資料を効率よく活用していた。

A子は、『群馬の文学』を見て、何か疑問を感じているようであった。それは、自分の知識としてとらえていた作品と作家を「勘違いして覚えていた。」ということからであった。しかし、その自分の気持ちを大切に、調べようと思っていた本来の作家を調べ始めた。自己評価でも、そのときの自分の気持ちを「ショックだった。」と書いた。そして、「いろいろ調べていたら、興味深くなった。」と考えるようになっていた。自分の勘違いをショックと感じた気持ちからの出発ではあったものの、調べていくうちに、作家やその作品への興味・関心へと変わってきたと考えられる。それは、A子にとって、作家を調べ、地域文学と自分とのつながりを深める活動を通して、自ら文学を学ぶ喜びを感じ、その作家に対しての興味が深まり、自分の思いを表現しようとする力がさらに伸びたと考えられるからである。

B子は、「出会いの過程」では、自分の住んでいる地域を題材に自分の思いをまとめ、学習してきた。しかし、今回は、題材が限られているだけに、最初は、悩んでいるようであった。「古典文学」の中から選んでみてはと助言した。なぜならば、B子は、古文や漢文に対して苦手意識をもっているが、1学期の終わりにB子が、「何だか古文が分かるようになってきました。」と言っていたのを思い出したからである。そして、「古典文学」の中から、自分の住んでいる地域文学を題材にしたものを選び自分の思いをまとめ、学習を始めた。学習を重ねるごとに、疑問に対しての対応やノートにまとめている様子から、B子の表情も変わり、学習に向かう姿も、少しずつではあるが、変わっていたように思える。それは、B子にとって、身近な古典文学に触れ、自分との地域文学とのつながりに気付くための学習によって、古典を読んでもみよう学んでもみようという意識を引き出したと考えられるからである。

以上のことから、『群馬の文学』から、新たな発見をした文学に気軽に触れられるよう、地域と地域文学とのつながりに気付くための調べ学習を取り入れたことが、地域文学と自分とのつながりに気付くことに有効であることが分かった。

- 3 自分と文学との関係が深くなるよう、調べた地域文学に寄せる自分の思いをまとめるための調べ学習を取り入れたことは、文学を深く見つめるようになり、自分の心と向き合う資質が育つことに有効であったか

『群馬の文学』から調べたものを清書し、原稿をもとに発表し、その発表について相互評価し、最後に自己評価する調べ学習を、4時間で行った。ペンで清書するということがあったが、生徒の古典 ノートには、前よりも調べたことが多く書かれていた。これは、反省をふまえ、調べながら疑問に感じたことについて読書したり、様々な資料を読んで学習していたからである。また、調べてみようという気持ちの変化が大きかったように思われる。前の自己評価で、ほとんどの生徒が、反省や自分の失敗を書き、次につながる評価をしたことが、この過程で発揮されたと考える。

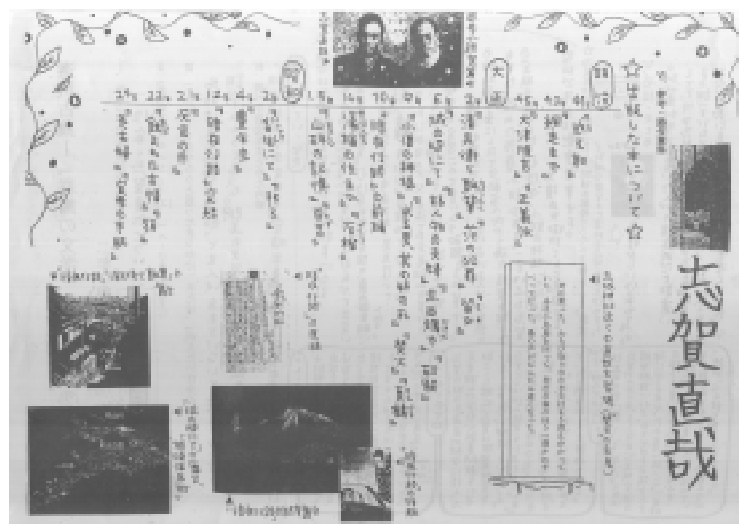
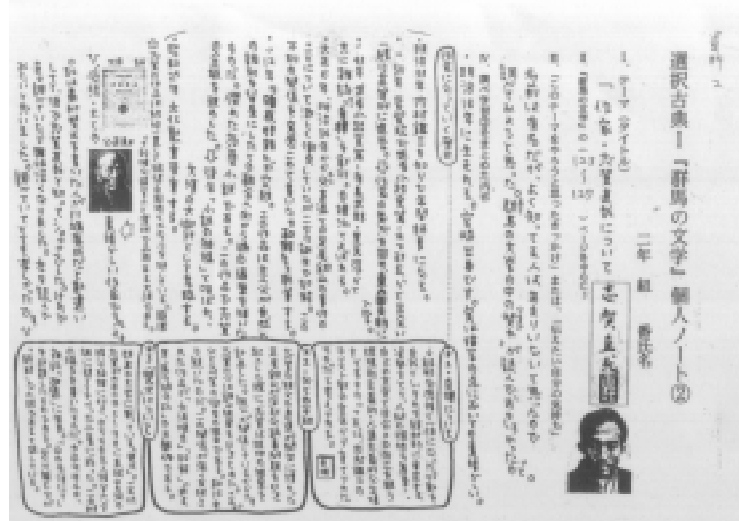
A子は、自分の勘違いから始まった学習であったが、個人ノート の清書もやはり、「出会いの過程」と同様に、分かりやすく丁寧にまとめた。作家について様々な角度から調べ、一生懸命に取り組んでいた。提出期限間際まで時間を十分につけて、提出した。自己評価でも、「勘違いしていたことはショックであったが、この作家の作品を読みたいと思うようになった。」と書いている。相互評価

資料2 A子の個人ノート

価では、「レイアウトが工夫してあり、とても見やすかった。名前しか知らなかったけど、群馬とかかわりがあることを知り今度読みたいと思った。」「私の調べた作家とA子さんの調べた作家に共通点があることを知り、驚いた。私は、その二人の作品を読みたい。」とあった。生徒には、生徒が書いた相互評価を渡した。級友から高い評価を受けたことで、自ら学んできたことに対して、自信をもつことができたに違いない。それは、A子にとって、文学と自分とのつながりを深める活動を通して、自分の言葉で、自分の思い文章で表現する資質が高められたと考えられるからである。

B子は、一連の学習を通して、自分が住んでいる地域文学を題材に自分の思いをまとめ、学習した。清書においては、前回の「写真やイラスト

などを入れればよかった。」という反省を生かし、レイアウトを工夫し、見やすく作成した。「前と比べても、よくできたと思う。」と感想を述べている。また、発表でも「原稿があるのとないのでは違いが大きい。」というB子の反省をふまえ、「自分の伝えたい思いを、原稿にしっかりとまとめてみては。」と助言したところ、原稿を用意し発表した。相互評価では、「B子の調べたことに関連した本を読みたい。」「同じ内容の文学のことを調べたけど、B子が読んだ本や、ほかの本も読みたい。」とあった。すべての相互評価を見て、「自分では伝えつつもりでも、聞いている人に伝わっていなかったのが残念。もっと発表を工夫すればよかった。」と自己評価した。B子は、この過程を終えて、「出会いの過程」とともに、地域を再発見するきっかけになったのではないだろうか。この学習を通して、学習に対しての意識が、最初の印象とは大きく変わったように感じている。最後に、「今回の調べ学習はどうだった？」と声をかけたところ、「とてもやりがいがあった。でも、もっと多くの本を読めばよかったの



資料3 B子への相互評価カード

調べ学習② 相互評価カード 提出用紙

「
の調べ学習②・発表②」について

今も言葉は他の国文の書とが
見られませんか？

呂国も大きな噴火があったんですよーと聞いた。
見た人が30人ほどおられないんですよー。
（信じられない感じですよ。絵に1/1000がなくて
あそこだけありました。）

今、長野県でぐにぐに火をいさんよ、また噴火が
あったらと聞いていた。3月10日は屋敷
だと思いました。しつりまててきておめめした
てす。

研究のまとめと今後の課題

- ## 参考文献

- ・田中 孝一 編 『新しい高校国語 指導の理論と実践』 株式会社明治書院出版(2000)
- ・瀬川 榮志 編著 『国語科「関心・意欲・態度」の評価技法』 明治図書出版株式会社出版(1993)